

芽室町Jクレジット認証・販売業務事業者選定結果

国は、2020年10月に「カーボンニュートラル」を宣言し、2021年4月には新たに「温室効果ガス排出量を2030年までに2013年比46%削減、2050年までに温室効果ガス排出量ゼロ」の目標を掲げている。

芽室町では、国や北海道などの動きを踏まえ、2050年ゼロカーボンの実現に向けて「芽室町地球温暖化防止実行計画（区域施策編）」を策定した。その中で、将来ビジョンを達成するための具体的な取組の1つとして『自然と調和した取組の推進と二酸化炭素吸収の取組促進』を掲げ、その取組事項として、『CO₂吸収量に大きく貢献する森林の適切な整備・維持管理を行い、それらの吸収量を活用してカーボンオフセットを必要とする他自治体との取組を図るなど、連携した取組を進める』ことを明記している。今回の事業については、地球温暖化対策のための排出削減・吸収量認定制度（以下「Jクレジット」という。）に基づくJクレジットの認証、販売に取り組むに当たり、確実なプロジェクト認証に向けた深い知見が必要であることや、より有益なクレジット販売を実施できる事業者を選定するため、公募型プロポーザルを実施した。

1 審査経過

Jクレジット認証の対象とする森林を所有する芽室町及び十勝広域森林組合（以下「町等」という。）で構成する「芽室町Jクレジット認証・販売業務プロポーザル審査委員会」（以下「審査委員会」という）を設置し、全2回の審査を行った。

（1）第1回審査委員会（令和7年4月7日）

委員委嘱及び委員長互選の後、芽室町Jクレジット認証・販売業務プロポーザル実施要領等を審査し、決定。

（2）プロポーザル公告（令和7年4月11日）

（3）審査確認結果通知（令和7年4月28日）

（4）第2回審査委員会（令和7年5月22日）

審査基準及びヒアリング審査の実施方法等について審議し、決定。

その後、提案書類、プレゼンテーション及びヒアリングを実施した。会社名・審査委員名は伏せ、提案事業者からの説明を受け、審査委員から質疑を行った。ヒアリング後に各委員による評価を行い、評価点の集計を行い、審査委員会での討議を経て優先交渉権者及び次点者を選定した。

2 審査結果及び講評

(1) 審査結果

| 項目 | 評点基準 | 配点 | A | B | C |
|----------|--|-----|-----|-----|-------|
| 業務実施体制 | 本業務の目的や内容が適切に理解されているか。本業務への基本的な考え方、実施方針が示されているか。 | 50 | 30 | 34 | 36 |
| | 経験や資格等を含めた人材、実施体制が業務遂行に適しているか（人員配配置、業務実施体制の根拠など） | 50 | 30 | 32 | 38 |
| | 作業スケジュールは、実現性及び実効性のあるものになっているか。 | 50 | 32 | 34 | 34 |
| 業務提案書 | プロジェクト登録・クレジット認証申請に係る事務の遂行について、調査方法から吸収量算定など、具体的な手法等の提案が示されているか。 | 75 | 45 | 45 | 54 |
| | クレジットの販売について的確な提案となっているか | 100 | 52 | 68 | 68 |
| | 事業年度における、各年度ごとの収支計画が適切な提案となっているか。 | 75 | 48 | 48 | 54 |
| 企画提案 | 提案に当たり、森林以外の有益となるクレジット事業、支援事業が示されているか。 | 100 | 80 | 72 | 76 |
| 収支に関する評価 | 当該事業者の提案額 10点（最高提案額）× _____ 再最高提案額 | 50 | 8 | 50 | 25.5 |
| 総合計 | | 550 | 325 | 383 | 385.5 |

優先交渉権者 東京都中央区京橋2-2-1 京橋エドグラン18F

株式会社ステラーグリーン

代表取締役社長 中村彰徳

次点者 東京都中央区日本橋2-3-21 群馬ビル6階

株式会社バイウイル

代表取締役 下村雄一郎

(2) 講評

今回のプレゼンテーションにおいては、各提案事業者が事業の目的を理解し、それぞれのノウハウを生かして提案を出していただいた。

優先交渉権者に選定した株式会社ステラーグリーンの提案は、全体的に考え方がしつかりとまとめられた内容であった。その中で、プロジェクト計画書作成・登録、モニタリング検証においては、審査機関への資料提出や調査方法などが対象となる森林面積を確実かつ短期間で作業できること、審査機関への手続き手法について十分な理解があることがこれまでの実績に基づいて説明されていた。

また、今回提案のあった収益見込みについて、森林経営計画や提供した資料に基づき、施業による増減を想定して精緻化を図っている点では、最高額での提案ではなかったもののリスク内容も踏まえた確実性が伺える試算内容であった。

独自提案については、芽室町の地域脱炭素に関する事業への支援などに関する内容であったが、経済性や環境価値、地産地消での地域への貢献を含めて、地域と一緒に取り組んでいく姿勢が見られた内容は評価できるものであった。

次点者である株式会社バイウィルについては、試算額が最高額であり、かつ本事業の内容を十分理解した上で、販売先についてターゲットやブランドストーリーを想定し、森林クレジットを地域にとって意味のあるものとして提案をいただいた内容は他者にはない提案内容であり、評価できるものであった。

最後に、本プロポーザルに参加され、真摯に努力いただいた関係各位に心から感謝申し上げる。

芽室町Jクレジット認証・販売業務プロポーザル審査委員会
委員長 佐野寿行

審査委員会委員名簿

| | 役職 | 氏名 | 所属等 |
|---|-----|-------|---------------|
| 1 | 委員長 | 佐野 寿行 | 芽室町副町長 |
| 2 | 委員 | 井上 貴明 | 十勝広域森林組合 参事 |
| 3 | 委員 | 酒井 誠 | 十勝広域森林組合 業務課長 |
| 4 | 委員 | 高橋 力 | 芽室町農林課長 |
| 5 | 委員 | 橋本 直樹 | 芽室町環境土木課長 |